

## 第6回兵庫県環境審議会自然環境部会 会議録

日 時 令和7年1月23日(木)  
午前10時30分開会  
午前11時40分閉会

場 所 ラッセホール5階ハイビスカス

議 題 議事 「生物多様性ひょうご戦略」の改定について

|     |       |        |      |        |  |
|-----|-------|--------|------|--------|--|
| 出席者 | 会 長   | 中瀬 勲   |      |        |  |
|     | 部 会 長 | 高橋 晃   |      |        |  |
|     | 委 員   | 太田 英利  | 委 員  | 竹尾 ともえ |  |
|     | 委 員   | 谷口 日出二 | 委 員  | 辻 三奈   |  |
|     | 委 員   | 能美 龍太郎 | 委 員  | 三橋 弘宗  |  |
|     | 委 員   | 與語 信也  | 特別委員 | 突々 淳   |  |
|     | 特別委員  | 山田 裕司  |      |        |  |

### 説明のために出席した者の職氏名

|          |       |            |       |
|----------|-------|------------|-------|
| 環 境 部 長  | 菅 範昭  | 環境部次長      | 久野 洋貴 |
| 自然鳥獣共生課長 | 森田 直子 | 自然鳥獣共生課副課長 | 永田 育子 |
| その他関係職員  |       |            |       |

### 会議の概要

(三橋委員)

パブコメで提出された意見について、何点か補足等をさせていただく。

まず基本戦略Ⅰへ保全だけでなく「回復」といった言葉を追加した方がよいという意見だが、国家戦略は持続的な利用など、保全以外の言葉も入っている。国の環境基本計画でも、再興あるいは再生という言葉が出てくるほか、COPでも再生は大きな柱になっているので、「再生」を足してもいいのではと思う。あるいは包括的な言葉を使うと「生物生息環境の適正管理」となると思う。

次に、貴重種の自生地公表などは、地域の意見も聞いた上で積極的に情報発信して保全に取り組んでいるところもある。ケースバイケースなので、包括的な記述が求められる。

また、特定外来生物アカミミガメの堆肥化に取り組んでいる自治体もある。そのまま食材に利用するだけでなく、堆肥への利用を通じた食への貢献もあるため、利活用は進めているということが分かるように回答してもらえればと思う。

シカの食害に関する意見については、第3期ニホンジカ管理計画に基づいて対策を進めているといった文言を入れてもいいと考える。瀬戸内海の広域的な対策については、(公財)国際エメックスセンターとも連携をしている旨を記載してはどうか。

(事務局)

当審議会のほかに、各分野の専門家により組織する生物多様性ひょうご戦略推進委員会を設置しており、委員会の中で、人間も自然の一部であるにも拘わらず、自然に対して「作る」という言葉を使うことは、あまり適切ではないのではという意

見もあった。

できれば、保全という言葉の中に再生や創出というニュアンスが含まれているということが分かるように追記させていただきたい。その他ご指摘のありましたことは、回答の文章を修正させていただく。

(竹尾委員)

シカの食害対策について、高齢化が進む集落などでは、ICT を活用したスマート獣害対策のモデル育成に取り組まれていると思う。そういったことも文言も追記した方がいいのでは。

(事務局)

ICT を活用した対策は県としても進めており、戦略本文の 39 ページにも触れている。ICT を活用しながら対策に取り組んでいるという言葉盛り込みたいと思う。

(山田委員)

貴重種の保全についてだが、希少種が生息しているということを地域に対して普及していくなど、ソフト面も盛り込んだ方がいいのではないかと。また、ナラ枯れについては、伐倒だけでは対策にならないため、「伐倒駆除」という言葉にしてほしい。

(中瀬会長)

地域に貴重種があるということは地域住民が一番わかっている。今後、地域住民にどう保全に取り組んでもらうか、次の戦略にでも盛り込んでもらえたらと思う。保全に取り組む人手が不足しており、人と自然の博物館のジーンバンクに預けることや、地域のビオトープへの緊急避難など、そういったことを考えていく時代になってきたと思う。

(事務局)

貴重種については、地域住民の方に行政の手が届かないところでも保全活動に取り組んでもらっており大変有難いと考えている。県としてもそういった団体に継続的な支援をしていきたい。

(谷口委員)

兵庫県自然保護協会では、長年にわたり、日本固有種のオオサンショウウオの調査と保全に取り組んできた。先般、特定外来種に指定されたチュウゴクオオサンショウウオとの交雑が兵庫県内でも懸念されるため、今後も継続的な調査が必要と思われる。可能であれば、このような活動も生物多様性の戦略として盛り込んで頂きたい。

(事務局)

本文の基本戦略Ⅰ「30by30 の推進」や基本戦略Ⅲ「多様な主体が支える基盤の充実」に入れることを検討させていただきたい。

(辻委員)

公募委員として参加するまで、生物多様性に関する県の戦略があるということを知らなかった。もっと多くの人に知ってもらう機会があると、保全活動にも活かされたりするなと感じた。

また私は、竹林問題の解決に取り組んでおり、里山と里海の中に竹が入っていないため、竹林の整備にも触れてもらえるとありがたいと思った。

(事務局)

本文 44 頁の森林保全対策の推進などに竹林に関する記載を盛り込めるか検討する。

(山田委員)

生物多様性戦略があるということは知っていたが、内容や指標のことについては、知らなかった。土木・まちづくり部局は生物多様性への配慮も重要となるため、まず庁内で戦略の内容に関する周知により一層取り組んでもらいたい。

(事務局)

生物多様性に関する施策は様々な部局に跨るものであり、庁内の情報共有をしっかりとしていきたい。

(中瀬会長)

28 頁の自然共生サイト認定団体等名についてだが、記載されている団体以外にも保全活動に取り組んでいる団体があるため、そういった団体のこともわかるように書いてもらえないか。

(事務局)

掲載している認定団体等名は、環境省が公表しているものをそのまま記載しているため、保全活動に取り組んでいる団体全てを把握することは難しい。注意書きなどにそういった内容を追加できないか検討させていただく。

(太田委員)

生物多様性戦略を改定するということで、県民が生物多様性に関して興味を持つ機運が高まっていくことは大事だと考える。川でコイを放流している人がいるが、コイは在来種をなんでも食べてしまい、そこに棲む生物がいなくなっていく。生物多様性とは、生物がいればなんでもいいというわけではなく、言葉の意味を真に理解してもらうことが重要である。

今後、日曜学校のような形で子供への教育に取り組んでいくと、親など周りも考え方が変わっていくと思う。一般家庭にこの戦略の考え方をどう浸透させていくかが大事であり、生物多様性は有識者が考えるものだけでなく、皆が恩恵を受けるもので、皆が考えていく必要があることだということを認識してもらうために頑張してほしい。